

# 死者32万人(政府予測) 南海トラフ巨大地震 &直下型地震の安全対策!

全20ページ(白黒ページは前のページの説明書き)です。

自然の猛威を観測し、災害を予防する (JYAN) 研 代表 國廣秀光

# 1P地震活動期と南海トラフ大地震

- 2年前、熊本地震が発生
- その後、鳥取地震、島根地震、大阪北部地震、北海道地震と続き、半年に1回のペースで発生！
- 南海トラフ地震では、**32万人**の方が無くなる。と、政府の予想ですが、地震予知は本当にできなくていいのですか？
- 今、最も、地震予知の必要性が高いと思いますが・・・
- 政府は防災対策へシフト中ですが、人命救助に最も効果的な「地震予知」を諦めて良いのでしょうか？ ≡ 誹りを受けます。

# 地震予知はできないって新聞やテレビで言ってるけど、本当？（答え1）

- 答え 日本地震学会や有識者会議は、たいへん困難＝ほぼできない！と、言っています。（**2017年**～）
- 現実 現在の地震観測は地震計が主力ですから、微動が始まってからしか判らず、地震予知はできません。  
また、直下型地震では、揺れた後に地震警報が鳴っており、命の安全には役立っていません。

# 地震計以外に予知は、できないの？ (答え その2)

- **GPS**観測 1200ヶ所の観測点を作って、地表の動きを観測していますが、震源等の深い所の様子は判らないのです。 ×
- **海洋**地震計 東海沖から拡大中ですが成功例はありません。 ×
- **電離層**観測 (民間が実験)  
電波や衛星等を利用して電離層の変化から予知を試みっていますが、大まかにしか判っていません。 ×
- 気象庁は、超高感度地震計 (地震警報)、**GPS**観測装置、海洋観測装置等々を設置しましたが、地震予知はできていません。

# 何か、できる方法は無いの？

- **あります。電磁気変化の観測**です。他にも少し・・・
- 雲や光の変化を観測すれば、大地の変化が判るようです。
- 動物の変化を観測すれば、大地の変化が判るようです。
- 他は？ 音、植物等いろいろとあると思います。
- 雲・光・動物・等々は宏観異常現象に区分されています。これらは再現性が難しいため、研究者が殆どいないのが現状ですが、今後に期待されています。

# 可能性が高いのは、何？

- 最も確実に効率的な観測方法は「**電磁気観測**」です。
- 電磁気観測なら、数日から数週前の予知事例が多数です。
- その方法とは
- 地中の地殻や岩盤等の軋轢変化を電磁氣的に観測します。  
軋轢（あつれき＝押し合いへし合い）が起きると電磁気が発生します。  
（押される＝圧電気、割れる＝負電気、摩擦＝摩擦電気等）  
これらの電磁気を地表で捉え、地中の変化を調べています。

Theme

地震や噴火から  
唯一、身を守る方法  
電磁気観測で予知実現

(電磁気観測)は、数週～3日前に、危険をお知らせできます。

自然災害を予知し、災害を予防するJYAN研 代表 (國廣秀光)

# 地震は、 どうして起き るの？

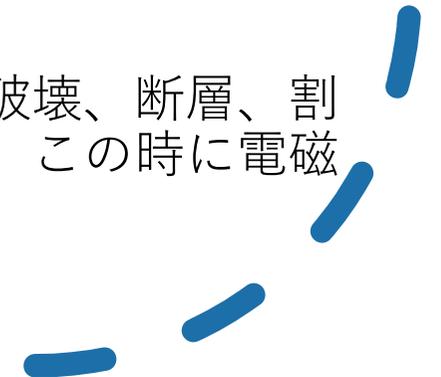
- 理論的説明（以下は著者の地震&電磁気理論から説明）

- 通常の場合

地球引力の収縮と、自転や公転等で、地球自体に撓みや歪み（太陽≒17cm、月≒40cm、惑星≒少々）が起き、マグマの変遷で噴火や地殻プレートの移動が発生し、地殻や岩盤に軋轢が起きているのです。

- 軋轢が極まると、地殻に断裂等の大きな変化が発生します。

地殻等は軋轢が臨界状態になると、破壊、断層、割れ、擦れ、摩擦等の変化が起こります。この時に電磁気が多く発生しているのです。

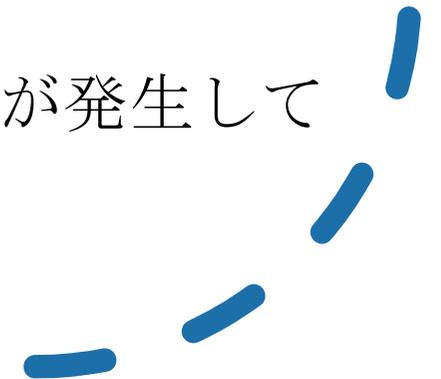


地殻の軋轢  
が極まると、  
どうして電  
磁気が発生  
するの？

- 地殻に臨界的な変化が起きると、下記の電磁気が発生します。

- 押される = +の圧電気が発生
- 引き剥がされる = -の負電気が発生
- 擦れる = 摩擦電磁気が発生
- 割れる = パルスやノイズが発生

- 物体が動けば、必ず、電磁気が発生しています。



# 地震前に起きる電磁気って、 どんな現象なんですか？

- ラジオ ノイズ等で聞こえない
- テレビ & リモコン 勝手に着いたり消えたり
- カーナビ 方向やナビが狂ってしまう
- 電波時計 時間が狂ってしまう
- 電柱から火花 バチッと火花が飛ぶ
- 動物（カラス含む） 騒いだり居なくなったり

# 地象を電磁気観測で災害予防！

地震予知情報

地割れ山崩れ

南海トラフ

火山噴火

3～7日前に**通知可能！！！！**

危険度と推移が判ります。

観測網敷設で**予知可能**です。

専用観測で判ります。

## 電磁気観測網なら**予知可能**！

(地中と地上の観測)は、私達の電磁気観測にお任せ下さい。

自然の猛威を観測し、災害を予防するJYAN研 代表 (國廣秀光)

# どんな電波や 電磁気を観測 する？

- 地下（アース）からは

ラジオにノイズが出たり、車に触るとバチッと電磁気が飛んだりする電磁気です。

- 地上の電波は

ノイズパルスが出たり、電波が強弱の変化を起こす電磁界と電波を観測します。

- 上空の電波は

電離層の変化で、電波が強弱等の変化を起こすのを観測します。

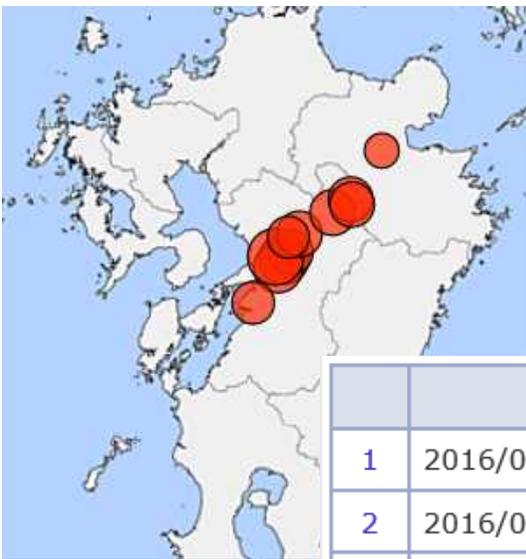
# どうして予知できるの？

- 下中上の電磁気観測から3原則が予測できます。  
3原則とは、いつ＝日程、どこで＝県等、大きさ＝震度
- 地震前（数日～数週前）に電磁気が変化します。  
地震の規模や、震源の深さ、岩盤質等で電磁気が変化します。
- 経験則（数日～数週前）で地震を予知できます。  
異常は3日～15日前の場合が多く計算式で3原則を求めます。

では、実際の  
観測例を  
ご覧下さい。

- まずは、2年前の熊本地震からです。
- 熊本地震は、地震発生後に前震、本震と言い変わった地震です。
- この電磁観測では、世界初の素晴らしい発見がありました。
- 大きい地震は、必ず「連続震」が起きています。

# 熊本地震は2週間に10回の大揺れ 大地震は殆ど「連続地震」



熊本では(4/19)  
までに  
震度7が2回

6強が 2回

6弱が 3回

5強が 3回

合計10回

	地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	M	最大震度
1	2016/06/16 14:21:28.2	内浦湾	41°56.9'N	140°59.2'E	11km	M5.3	6弱
2	2016/04/29 15:09:34.3	大分県中部	33°15.4'N	131°22.0'E	7km	M4.5	5強
3	2016/04/19 17:52:13.6	熊本県熊本地方	32°32.1'N	130°38.1'E	10km	M5.5	5強
4	2016/04/18 20:41:57.9	熊本県阿蘇地方	33°00.1'N	131°11.9'E	9km	M5.8	5強
5	2016/04/16 09:48:32.6	熊本県熊本地方	32°50.8'N	130°50.1'E	16km	M5.4	6弱
6	2016/04/16 03:55:53.0	熊本県阿蘇地方	33°01.5'N	131°11.4'E	11km	M5.8	6強
7	2016/04/16 03:03:10.7	熊本県阿蘇地方	32°57.8'N	131°05.2'E	7km	M5.9	5強
8	2016/04/16 01:45:55.4	熊本県熊本地方	32°51.7'N	130°53.9'E	11km	M5.9	6弱
9	2016/04/16 01:25:05.4	熊本県熊本地方	32°45.2'N	130°45.7'E	12km	M7.3	7
10	2016/04/15 00:03:46.4	熊本県熊本地方	32°42.0'N	130°46.6'E	7km	M6.4	6強
11	2016/04/14 22:07:35.2	熊本県熊本地方	32°46.5'N	130°50.9'E	8km	M5.8	6弱
12	2016/04/14 21:26:34.4	熊本県熊本地方	32°44.5'N	130°48.5'E	11km	M6.5	7



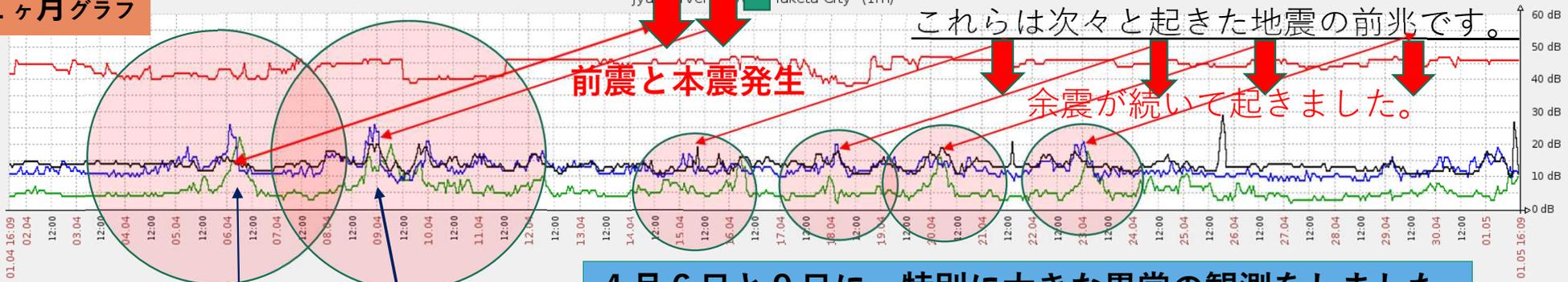
# 余震は誤表現 で連続震の違 い

- 余震とは、余った地震エネルギーの発散とされます。
- しかし、実際は、最初の地震に匹敵するくらい大きい地震が次々に起きています。
- 従って、これらの大地震は、余震では無く、連続震なのです。
- 大きい地震ほど連続震は多く長期になります。
- 次は、熊本地震の観測例です。

# 4/6&4/9日時点で地震を予知した証拠グラフ

## 1ヶ月グラフ

Jy...ver... Taketa City (1m)



前震と本震発生

余震が続いて起きました。

これらは次々と起きた地震の前兆です。

JF6	79.7MHz FM Ehime	10 dB	0 dB	3.99 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	11 dB	0 dB	9 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FMOita Taketa	46 dB	28 dB	43.41 dB	47 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	11 dB	0 dB	12.25 dB	29 dB

4月6日と9日に、特別に大きな異常の観測をしました。大きい地震が2回来ると判った！貴重な観測データです。14日には地震に備えて竹田に行っていました。その後の余震も異常と地震が連動しています。(100%捕捉です)

## 4日間グラフ



青が+16dBの揺れ

青が+16dBの揺れ

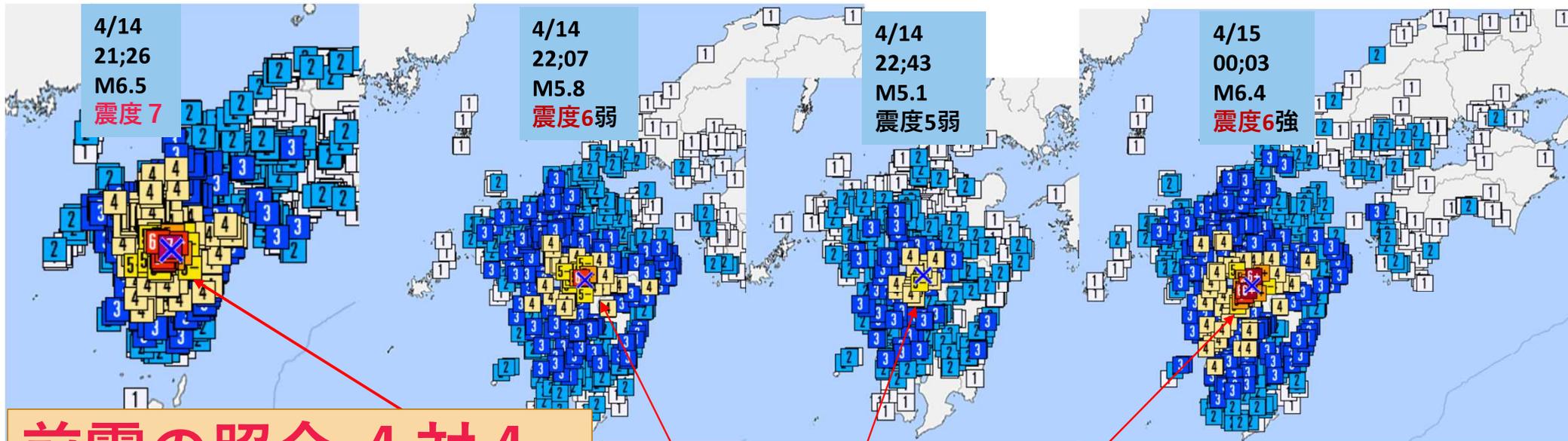
JF6	79.7MHz FM Ehime	9 dB	0 dB	5.98 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	6 dB	0 dB	9.67 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FMOita Taketa	46 dB	31 dB	42.45 dB	46 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	12 dB	0 dB	12.80 dB	20 dB

青 = 熊本が、6日と9日に平常11dB~26dBへ上昇

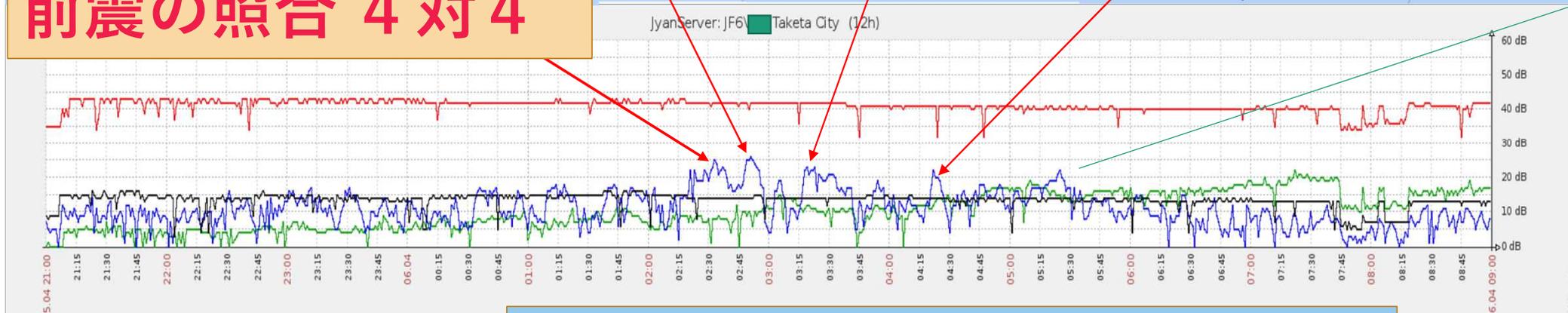
上図は4月の1ヶ月グラフです。下のグラフは両方を記録した4日間の電界強度グラフです。

# パーフェクトに観測できた例(熊本地震)

- この**Graph**は熊本地震の前・本震を1週間前に観測しました。
- 横軸は**1ヶ月間**です。縦軸は電界強度のグラフです。(色は各電波)
- 青色は、熊本ー竹田間のグラフで、大きい変化がありました。
- 経験則では、大きく変化すると≒**1週間**後に地震が起きています。
- 大きな変化が2回の1週後、前震・本震の地震が起きました。
- 余震も異常の≒**1週間**後に地震が起きています。



**前震の照合 4 対 4**



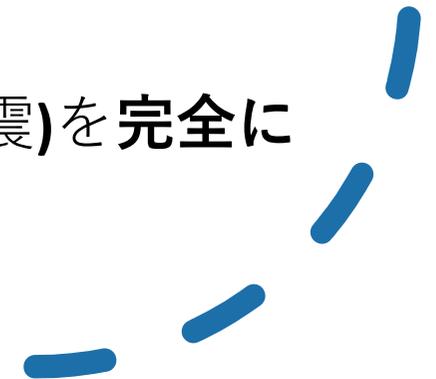
JF6	79.7MHz FM Ehime	17 dB	0 dB	10.10 dB	22 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	8 dB	0 dB	10.94 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FM Oita Taketa	42 dB	32 dB	41.02 dB	43 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	13 dB	3 dB	13.38 dB	16 dB

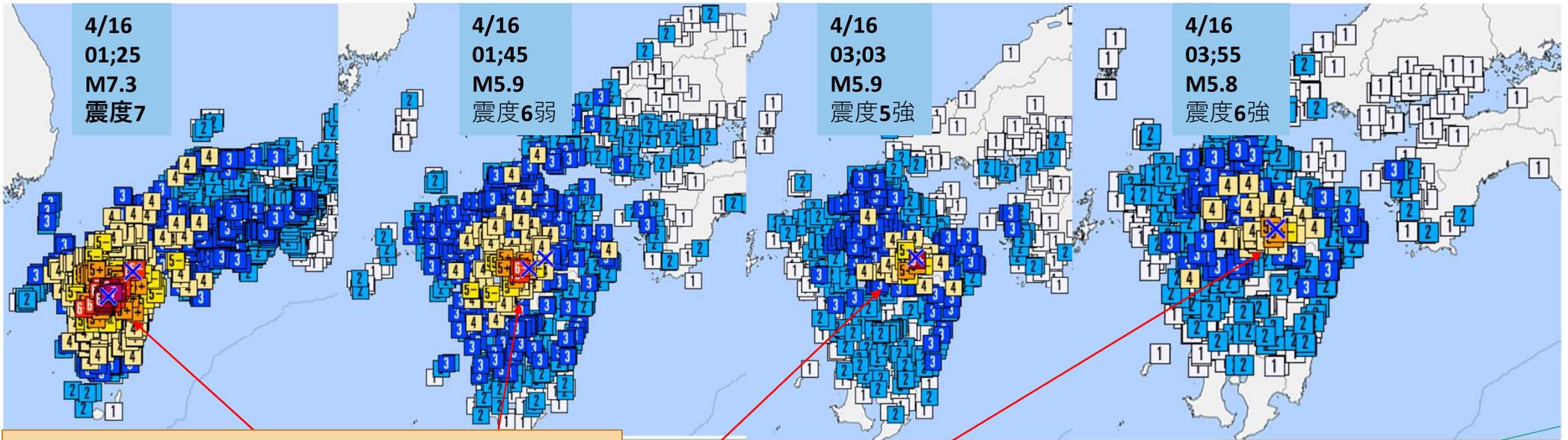
**異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等がほぼ一致した！**

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

前震 異常  
ピーク 4 回  
= 4 回の地  
震発生

- 3 時間以内に限定すると、4 回の地震が起きています。
- これは、余震では無く、連続的な地震です。
- 一週間前の観測 **Graph** にも 4 回の異常ピークがありました。
- 最も大事  
1 週間前に、前震(4 回の大地震)を **完全に予知** できたのです。





**本震の照合 4対4～**

JyanServer: JF6 Taketa City (12h)



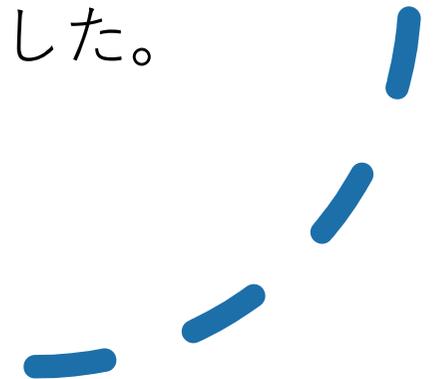
**異常ピークと地震の回数・時期・大きさ等がほぼ一致した。**

JF6	79.7MHz FM Ehime	□□□	6 dB	0 dB	10.37 dB	16 dB
JF6	85.40MHz NHK-Kumamoto	□□□	9 dB	0 dB	13.40 dB	26 dB
JF6	81.8MHz FM Oita Taketa	□□□	45 dB	36 dB	44.78 dB	46 dB
JF6	88.9MHz NHKFM Oita	□□□	12 dB	4 dB	15.21 dB	20 dB

上の震度図は気象庁発表の地震資料です。

本震 前兆  
4回で地震  
が4回でし  
た。

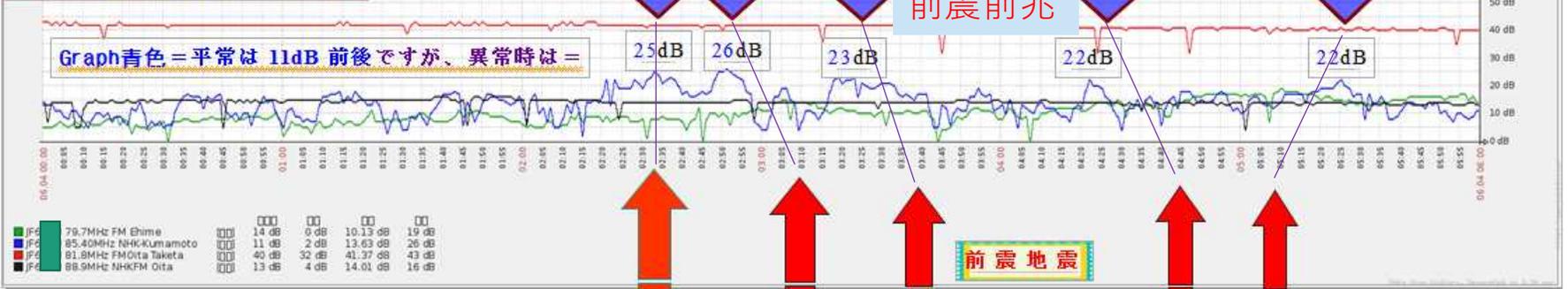
- 1週間前に、本震の連続震4回が判っていたのです。
- しかも、**大きさや時分的な間隔**も予想できるのです。
- これは、大発見（世界的）でした。



# 熊本地震前震

の  
次は何分後判る

## 前震照合グラフ



前兆と地震回数が一致!  
(前兆間隔)  
時間や間隔も概ね一致!

観測時間	4月6日 2:33	2:52	3:23	4:22	5:25
(前兆間隔)	(19分)	(31分)	(59分)	(63分)	
地震間隔	(41分)	(31分)	(65分)	(20分)	
発震時間	4月14日 21:26	22:07	22:38	23:43	0:03&06

## 本震照合グラフ



観測時間	4月8日 21:13	21:35	22:20	23:35	4/9日 0:55
(前兆間隔)	(22m)	(45m)	(75m)	(80m)	
地震間隔	(19m)	(77m)	(52m)	(196m)	
発震時間	4月16日 1:25	1:44	03:03	03:55	07:11

本震も回数が一致!  
時間も、概ね一致!

これが一週間前に判るとは43!

時系列で照  
合しました。  
完全合致で  
す。

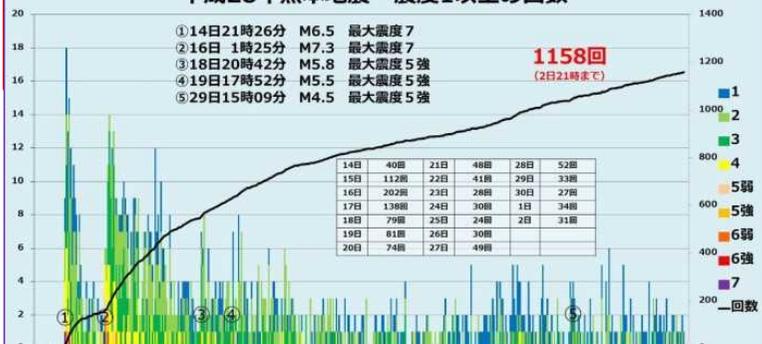
- 前震の4回の前兆と実際の地震の時系列照合が一致です。
- 次に本震4回の前兆と実際の地震の時系列照合が一致です。
- どちらもぴったりと合っていることが判ります。
- しかも、次は何分後か？まで予測できます。（観測網が必要！）
- これは、世界初の大発見なのです。こんな予知が本物ですよ。
- 現他社の予知情報は、発生場所や発生日時がぼけて(網掛けが多く)

信頼される情報とはなっていません。参考**地震前兆現象を科学する(2015/12)織原 義明、長尾 年恭**

# 熊本-大分連続大地震 (2016-4/14~16~)

死者200人 避難者18万で長期間

平成28年熊本地震 震度1以上の回数



一部TVNewsから

こんな「予  
知情報」が  
あれば！！

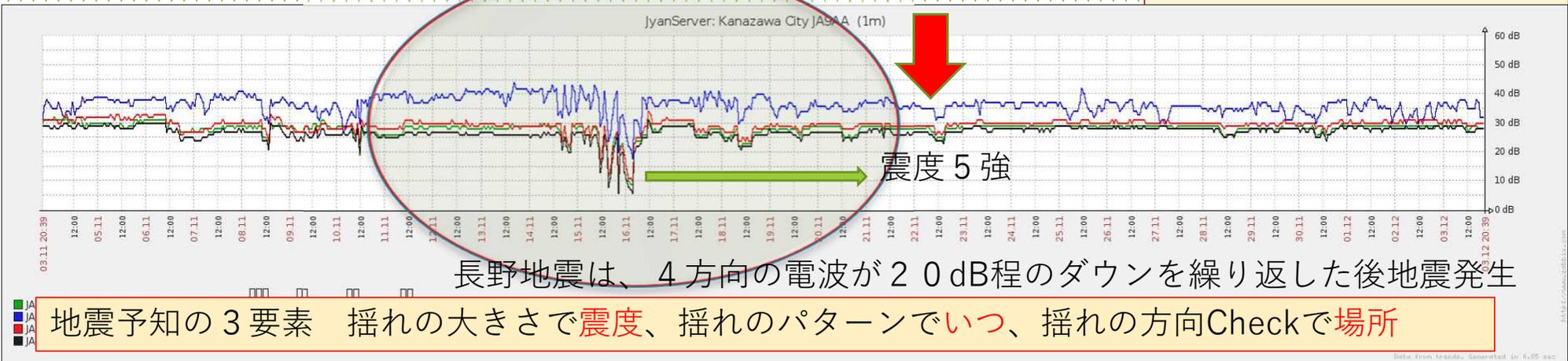
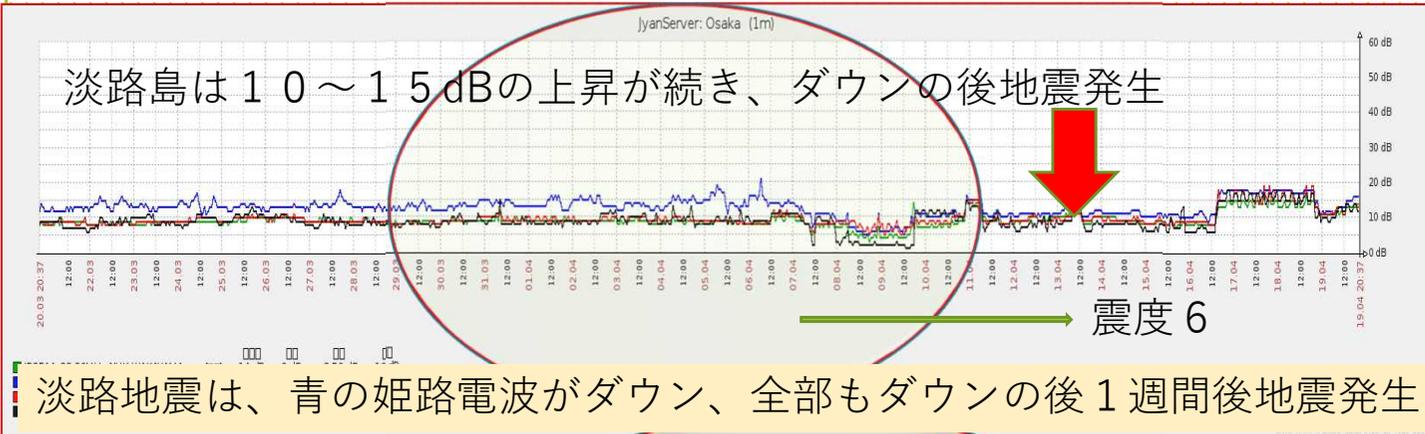
- 前震～本震で、亡くなった方は殆ど出なかったでしょう。
- 残念なのは「今後は余震に注意して下さい」と言うアナウンスで家に帰り、本震の震度7 & 連続震で亡くなった方々です。
- 如何に、正しい予測情報が必要か！と言う事が判ります。
- 当研の観測情報が生かされれば、命は助かったと思います。

# 地震の観測例 (両方とも≒1週間後に地震発生) 淡路島地震 と 長野地震 100%

淡路島は  
レベルアップ  
(2013年4月)

長野地震は  
レベルダウン  
(2014年11月)

他の例多数有り



# 熊本地震だけではありません。

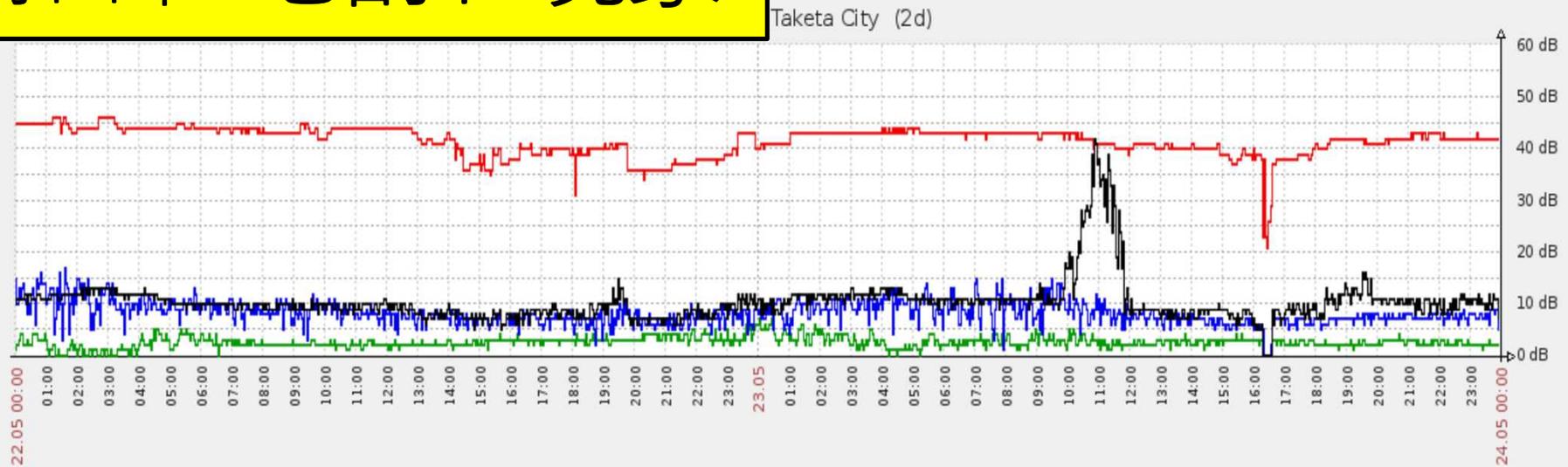
前のGraphは、5年前の淡路島地震の観測です。（新聞にも載りました）

大きい異常変化があってから、5日後に地震が起きています。

下は、4年前の長野地震での観測事例です。やはり、異常があってから約1週間後に地震が起きています。

こんな例が、いっぱい有るのです。（もう、大分ネットの観測網が広がり始めてから10年も経ちました。だから自信を持って発言できます。）

# 竹田市 地割れ現象

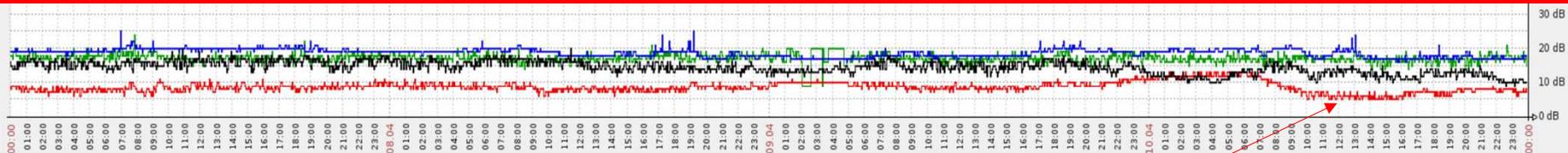


- 竹田の地割れを、赤線グラフの落ち込みが捉えています。
- 地質学の教授の指導で、大分県は水を抜くボーリング工事を多くしましたが、殆ど効果はありませんでした。
- 当HPで予想した通り、3回の大きい地割れ後に収束しました。

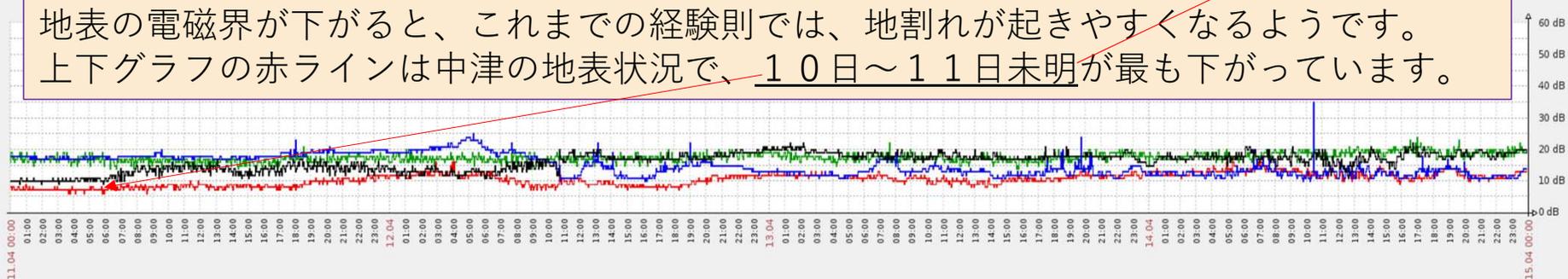
## 竹田市での 地割れの観測事例です。

- 竹田市の朝地町で地割れが起きました。
- 丁度、竹田市の直近に観測局がありました。地割れ、**News**があった後、観測**Graph**を見ると異常が記録されていました。
- 確かに、異常が起きてから、地割れが始まっています。従って、地割れも観測**Graph**に現れた事になります。
- 3回の大きな**Graph**変化後、地割れも3回進行しました。
- 地質学者先生の指導で、県がボーリングを何本もしましたが、殆ど効果なしでした。
- 従って、地割れや落ち込みは**SlowQuake**と考えています。

# 中津の山崩れの原因は、誰も判らない？



地表の電磁界が下がると、これまでの経験則では、地割れが起きやすくなるようです。上下グラフの赤ラインは中津の地表状況で、10日～11日未明が最も下がっています。

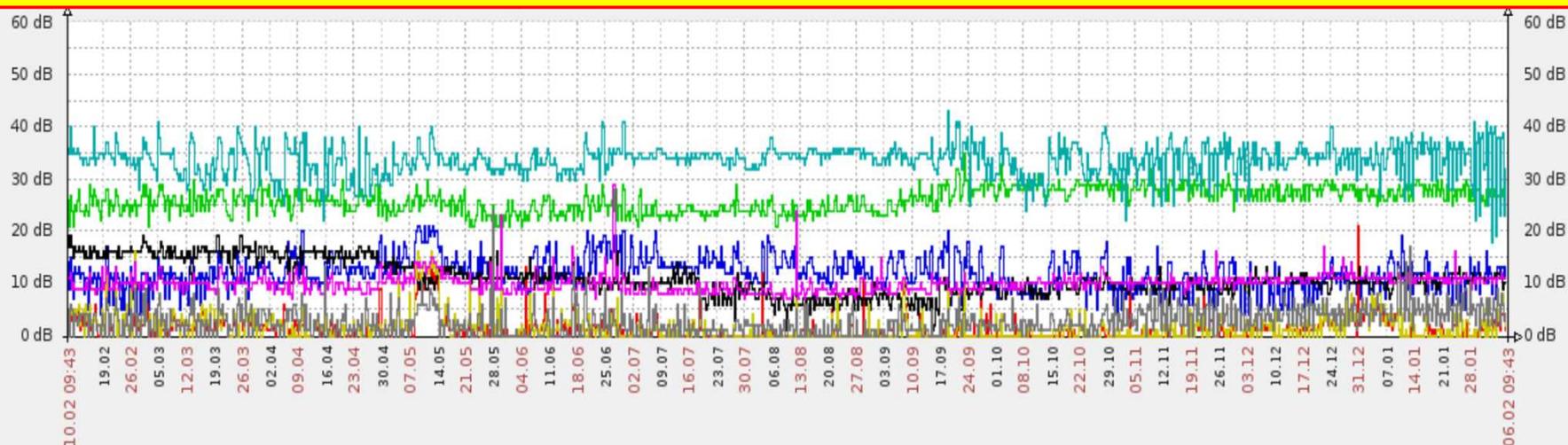


- 学者連は判らないと言うが、私は山崩れの原因を、翌日のホームページに書きました。内容は、  
(1) 3月の初旬と中旬に滅多に無い程の大雨で、地盤が軟らかくなり、(2) 山崩れの3日前に風速15mの大風が大杉を揺らし地盤がぐらついていた。=杉山だけの崩落 (3) 急斜面であり、日頃でも石ころが落ちてくるほどで、地滑りや山崩れ危険が高かった。  
(結) 電磁観測グラフでは、10日～11日未明に落ち込み=表層が伸張するの=で、地割れ危険が高く、落ちそうになっていた大石の落下等が、山崩れのトリガーとなったものと予想しています。
- ◎ 一般的には判りにくいと思いますが、中津地方は1月中旬から電波レベルに異常が起きてました。

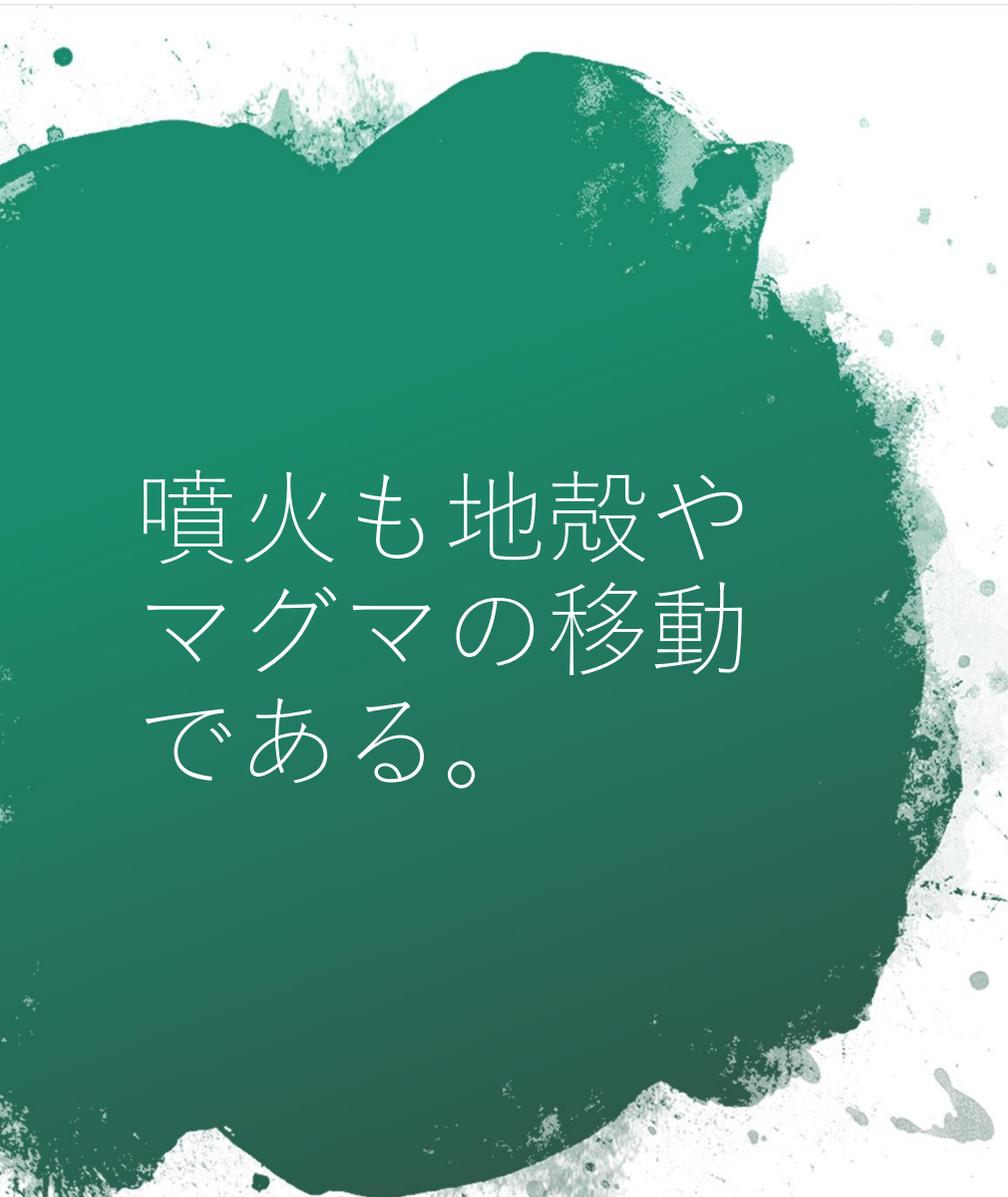
山崩れも電  
磁観測に現  
れています。

- 中津の山崩れは、多くの学者や大学の教授も原因は判らないと言いました。
  - 結局、誰も原因が判らなかつたのです。
  - しかし、私は、3月に大雨が2回降っている事、3日前に大風が吹き荒れている事、当日の3時頃は、急傾斜地地面の伸びで大きい石が転げ落ちたのではないかと考えています。
- 
- 自然の観測には「地象と気象」の観測が必要なのです。両方を見ないから、誰も、原因が判らなかつたのでしょう。

# 桜島・新燃岳等の観測(鹿児島・宮崎)



- 桜島や新燃岳等の噴火がある時は、上記のように揺れ変化が出ます。
- 火山によって変化模様が異なりますが、火山噴火専用観測網を置けば、
- 地殻に変動があった段階で、危険度の予測が出来るようになります。



噴火も地殻や  
マグマの移動  
である。

噴火も、地殻の変動と大きな関係  
があります。

マグマの移動や、地殻の変動は、  
他の現象と似た所があります。

これまでも、火山や噴火は共通点  
が多いと考えています。

従って、専用の観測点を置けば、  
良く予知可能と考えます。

観測室  
無線は  
オタク  
3ギガ  
迄50年



# 地震研究には電磁気の研究が必要です。

- 私達は、地震と、電波やノイズの専門家です。だから、予知が可能となったのです。
- 現在の日本地震学会の教授連は、電磁気学に疎いのです。
- また、大地の揺れではなく電磁気の揺れを観測するには、高度の電磁気学と卓越した技術が必要で、先端的な知識が必要なのです。
- 写真は第二観測室で、第一観測室と解析室が別にあります。
- 宇宙天文に使う高価なスペクトルアナライザーを5台アメリカから直輸入して観測と研究をしています。だから新発見が多いのです。
- 地震予知学には、最新の電磁気学 +  $\alpha$  の技術が必要なのです。

どんな

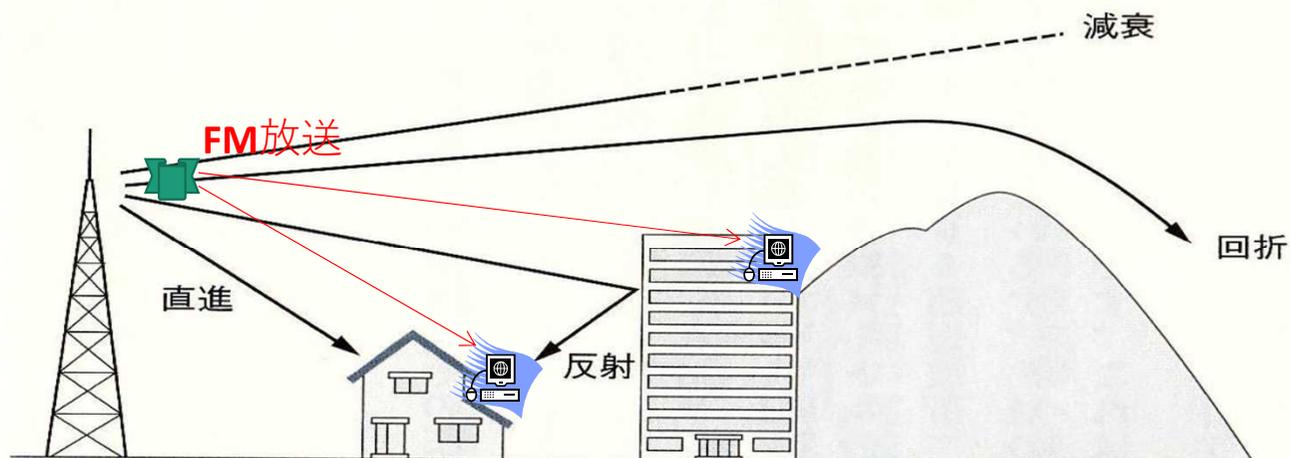
観測

ですか？

電磁波の観測をいろいろな方法で行っていますが、当観測網では、地表を伝わるFM放送電波を(主として)直接的受信で揺らぎ現象等を観測しています。

- 観測網では、直接波を受信するため数m～十数m高の見通しアンテナで観測しDataを収集しています。なお、直接波観測は、電界強度の±両方向の観測が良く判ります。

図2-4 電波の性質



遠くは、100Km程度のフレネルゾーン迄の地表波を観測していますが 電離層は、地80Km～300Kmと高く、観測焦点がボケるので、1局のエリアは横50Km程度としています。

FM受信用  
ダイバシティ  
アンテナの例



簡単？

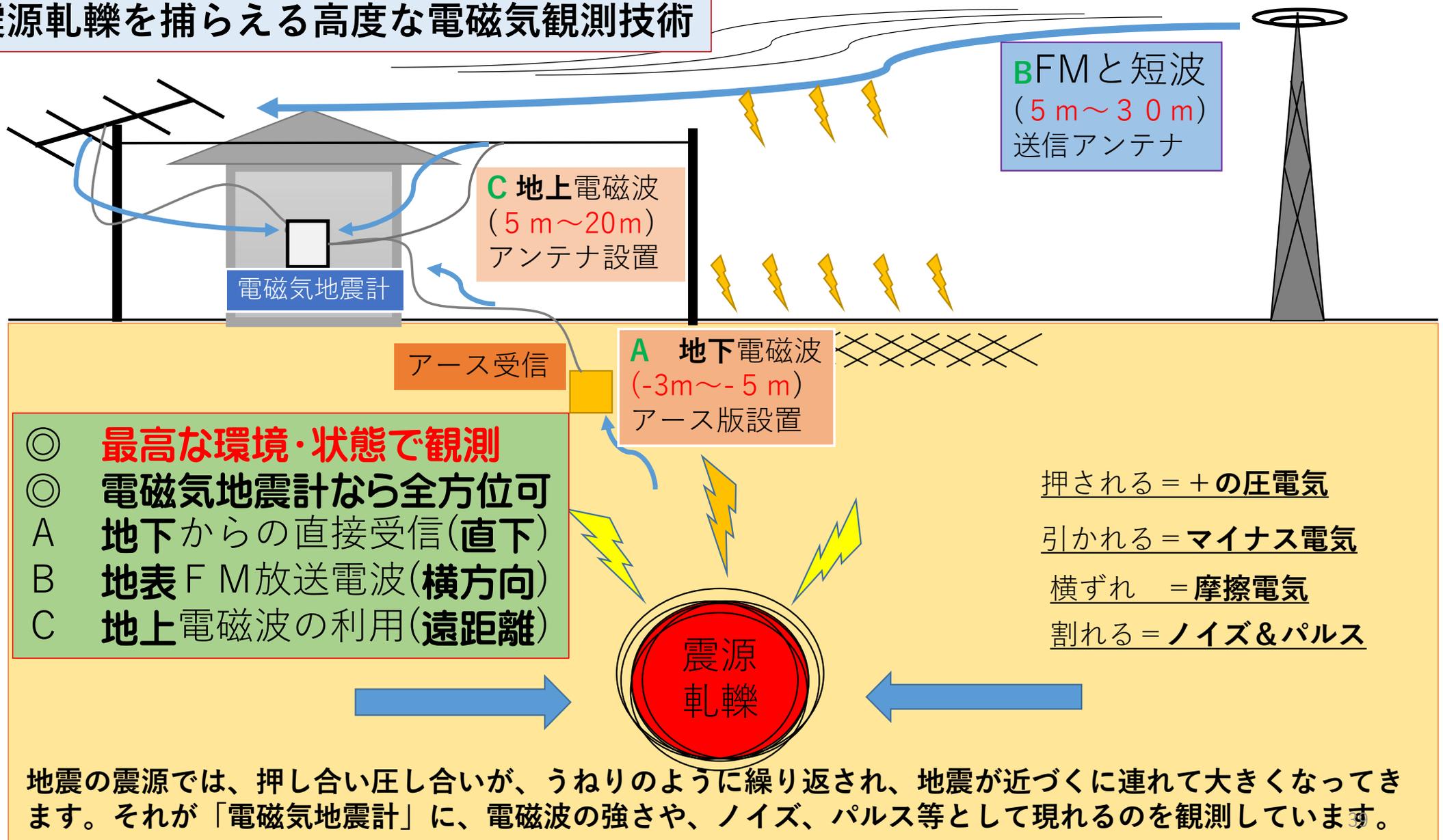
No

高度技術が必要

# 全周波数の電波を、完全に調べました。

- **10**年かかりました。また、電波観測用として、アメリカから、高価な宇宙天文用スペクトルアナライザーを5台+ $\alpha$ を直輸入しました。  
こんな贅沢な地震電磁気研究室は大学や研究所にも無いのです。
- 全部の周波数とノイズやパルスを長年継続して調べています。
- 観測専用機の**V2**は構想と制作に**10**年を要した傑作です。
- **FM**を利用したのは、北大の森谷先生とタイアップしたからです。

# 震源軌轍を捕らえる高度な電磁気観測技術





# 電磁気の観測 は3方向の観測 が必要です。

- 地下、震源では、各種の軋轢が起きています。
- 地表では、軋轢等で発生した電磁気で電磁界ができています。
- 上空では電離層自体が緩やかに変わり電波伝搬も乱れてきます。
- 地殻の軋轢は、押されて圧電気、離されて負電気、擦れて摩擦電気、割れてノイズやパルスなどを発生させています。
- 昔、地震学会の著名な先生から、地下深くで電波ができたり、地上まで出てくるはずは無いでしょう。と、嘲笑されましたが(10年前)・・・理論構成が纏まった(7年前)後から、交流の電磁誘導なら簡単に伝導できますよ。と説明し反論はありません。
- 結局、3方向の観測なら満足できる観測データが得られます。



試作 2号機

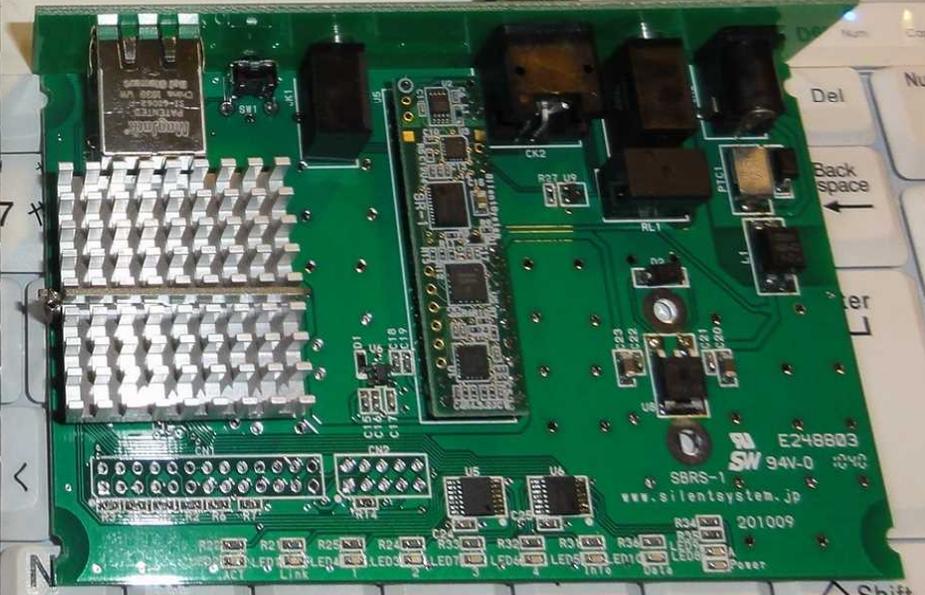
[ラジオロガーはFM 8CHを受信し全国 Netで、Live観測ができる最強マシン！

仲間と作った地震観測専用の電波受信機  
下 実験機本体の内部写真

電波観測装置



表面側



全容写真 FM受信専用のNet受信機として開発(2008年)全国Net構築へ

これが、現  
用の受信装  
置です。

- インターネットに繋ぎ、1分おきに、観測データをサーバーに送っています。10年経った今でも世界最先端の機械装置です。4～8チャンネルの電波観測のデータを送ってくれます。
- 観測10年で、予測に必要なデータが判りました。今度は大幅に性能を強化し、耐久性もプロ並にします。これまで、性能重視の実験機でしたが、やはり、安定して、確実に異常を捉える受信装置にする必要があります。
- 新型受信装置は、規格が統一され、性能が安定し、障害にも強くなります。大事な観測には、信頼できるデータが必要なのです。

## 研究23年「できた事」と「新発見！」

- 無線資格は第1級 海外と交信で電波はオタク級の実力
- 地震前兆現象、10年かけて実験し、観測装置も開発した。
- 新発見の連続、20年かけて電磁理論構築、観測で確認済
- 1 電磁波の観測法、2 電波ミラージュ発見、3 アース伝搬発見
- 4 潮汐と同期発見、5 電磁波異常と地震の相関関係発見
- 6 観測網で地震予知 3原則の解析方法発見、7 自動化開発中
- 8 電磁ノイズと電磁パルスの解析によって「**切迫度開発可**」
- 9 地震・噴火・地割れ等と地殻異常の関係を電磁気観測で解明
- **10** 「下 = アース, 横 = **FM**電磁波, 上 = 短波観測」で予測率達成!

# 新発見は、どれをとっても大発見です！

- 大分県に観測ネットを作ってから**10年**観測を続けています。従って**膨大なデータ**があります。（**2T**ハードディスク**60基**）
- 観測局も次第に増え、今は約**50局**で**200波**を常時観測しています。最初は**Graph**を見ても殆ど判りませんでしたが、今は殆どの異常変化が「**経験則**」となって確実性を高めています。
- どの発見も地震予知には無くてならない大発見で、これらの発見があったからこそ、私の電磁気理論が構成できました。
- これらの発見で電磁氣的な地震予知学が大きく進歩しました。



# 東日本大震災

2011.3.11(約2万人)



海が燃えた！



まさかこんな津波が来るとは！？

この災害は想定外と言われたが、実は、地震学者・気象庁・行政・住民等の間違いだらけ？の災害だった。  
◎三陸は、ハザードマップで地震の来ない所とされ、津波も、3～5m高が、奥では15mもあった。

# 南海トラフの地震予知は大命題！

トラフ地震は、私達に任せて下さい。

実際に設置するときは、他機関と協力し、簡単に安く、確実に地震予知が可能とできる方式をとります。

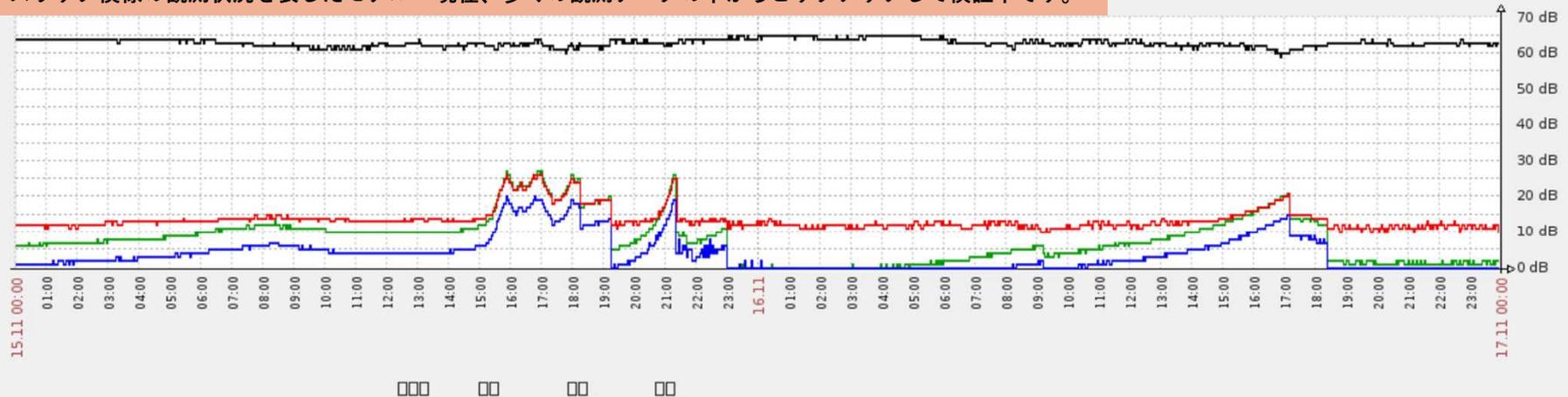
民間会社や大学や専門学者よりも予知確率では比較にならない程上位です。（ただし、観測エリア内に限りませんが・・・）

東日本大震災は間違いだらけでした。もう、想定外はいけません。

南海トラフの地震も、観測できた結果でスロースリップを捉えています。新受信方式を、海洋型に改造すれば、熊本クラスの観測が可能となります。ただし、これらの技術は、簡単そうですが、ノウハウがいっぱいあり簡単に真似はできません。

政府の実行指示があれば、直下型からトラフ地震を予知し、最高の貢献をします。

プレスリップ模様の観測状況を表したモデル 現在、多くの観測データの中からピックアップして検証中です。



- トラフ地震が読める **プレスリップ観測技術は検証作業へ**
  - (1) 海岸観測局で、プレスリップ模様の観測データがあります。
  - (2) 海洋型の電磁気地震計を開発中で、トラフ地震を数週前に捕捉します。
- 観測機器やソフト、アンテナ、解析ソフト、統合システム等は**ノウハウが沢山**です。23年間の蓄積技術は、多くが知的財産です。

# 今後の目標 は！

○プロ仕様の電磁気観測計を作り、全国に電磁気観測網を敷設し、トラフや周辺海域の観測に海洋型電磁気観測網を敷設します。（構想なのですが、費用的には検討を要します）

○地象の総合観測センターとして、**WeatherNews**のように

（天気予報のように、地象**GrandNews**状況をお知らせする）

○気象庁と協力し危険情報を配信して安全な生活に貢献したい。

○地象総合研究所を作って、世界的な発展拠点としたい。

◎以上に協力戴ける方を募集して実現を目指します。

# 全国の観測網 (第1期の計画) 電磁観測網予想図 600局 [県単位]で情報配信可能

沖縄諸島

地震等危険情報とは  
いつ 月日  
どこで 県&市  
どれくらいの 震度

右図は200局分の表示図  
北海道、東北、信越、関東  
北陸、東海、中部、近畿、中国  
四国、九州、沖縄、島嶼地方  
観測の「どこ?」と、範囲は  
600局観測 県~地方単位  
1200局観測 県地方の単位  
1800局以上 市単位で場所  
を発表する事が可能です。

小笠原諸島



県庁と観測点  
増加観測点

(各県に4~5局配置  
図では170局です。)

発足時計画は600局  
二~三期計画600局  
設置予定数1,800局  
気象庁の観測と他局数(地震計は3900局)

地震等危険情報を  
Danger News  
的に配信

# 将来的な目標

- 全国に電磁気観測網を敷設（数億～数十億円）
- トラフ等の観測に海洋型電磁気観測機で観測網を敷設  
（費用的には見当が付かない）
- 地象観測の総合観測センターとして、**WeatherNews**のように  
（天気予報のような見える**GrandNews**形式でお知らせして）  
危険情報を配信して安全生活に貢献します。
- 総合研究所を作って、世界的な発展拠点とします。

資料 1

地震予知の3原則は

いつ = 日

どこで = 県

大きさ = 震度

経験則 = 計算式で

自動化 = 数値

配信 = 自動

- 電磁異常レベルが大きい = **地震が大きい**
- 電磁異常が早く出た = **震源地が近い**
- 電磁異常の間隔が狭まった = **地震が近づく**
- 感知日時同心円が広い = **震源が深い!**
- **電磁界・ノイズ・パルスも大事です。**



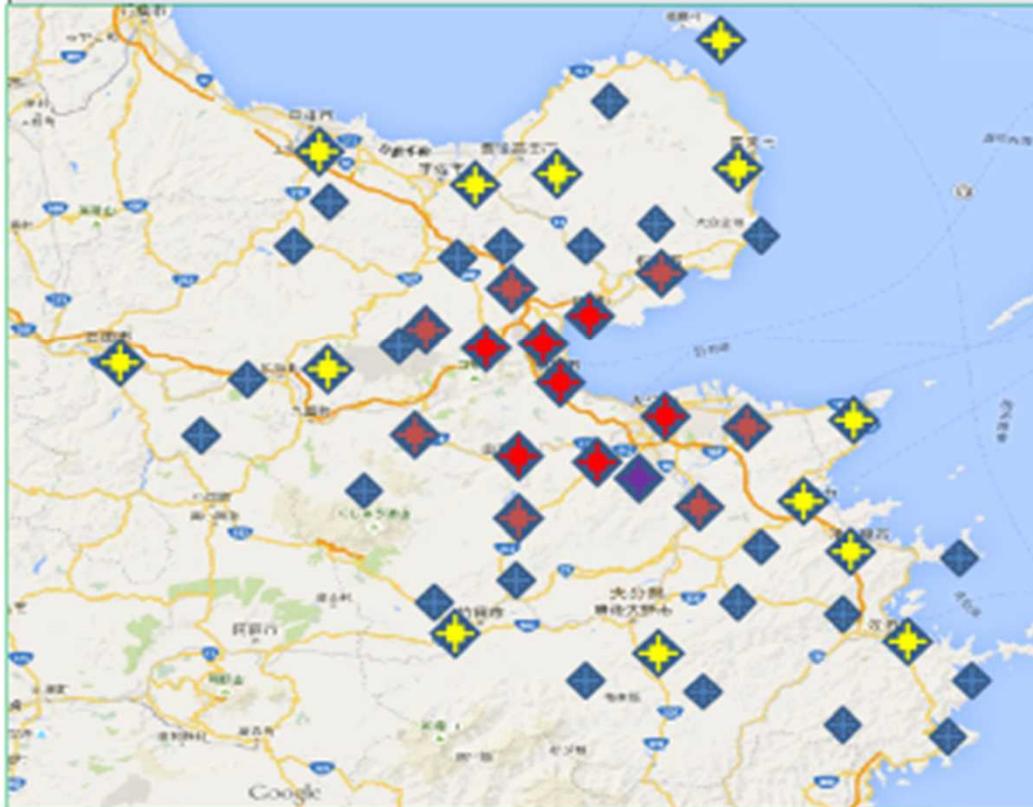
# 電磁観測網図

- 関東地方
- 20 Km間隔
- 10 × 12 枠 = 120 枠
- ≒ 85 局敷設
- 市区に 1 局
- 電磁観測から地震を正しく予知する方法は左上の○に掲載



# 大分県内36～50カ所観測網予想図(各局の異常色)で黄色は要注意、赤色集中は直下が震源、異常レベルと範囲で「大きさ」が判明

「地震観測互惠ネット」での観測予想図(高崎山付近)  
(赤)が特別警報局(橙)が警報局(黄)が注意局



- ◆ 特別警報
- ◆ 警報局
- ◆ 注意報

◆ 補助局

特別7局  
警報7局  
注意15局  
補助局は  
全て黄色

一目で別府と  
大分が危険と  
判ります。

気象庁の地震観測は全国600カ所の観測点からのデータを集めています。

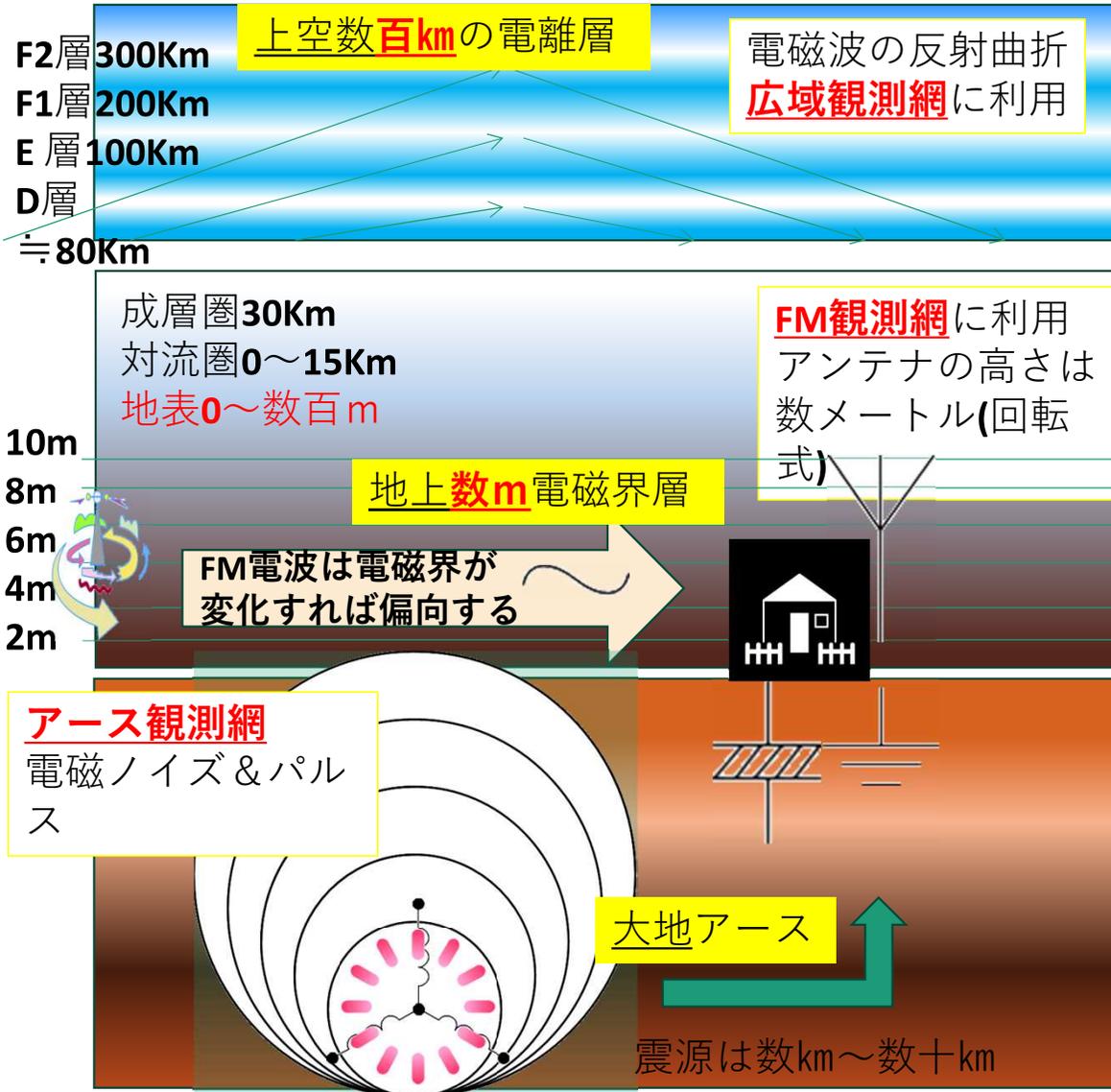
他機関等を含め全国で3,900カ所に地震観測点があります。期待された地震警報は(直下型地震は間に合いません。)

しかし、

当観測網ができれば、ほぼ1週間前に、左図＝天気予報のように地震情報をご覧になれます。全国に広がれば、データの相互補完体制が完成します。

(各県に統括局を配置)

上  
中  
下  
観測



3 電離層は  
 上空 ≒ 200 km  
 D E F F2 層

1 空気接地層  
1.5 電磁界層  
 • 地上高数m~  
 • 遠地は数百m

2 大地アース  
 • 震源の深さ  
 数~数十kmで  
 軋轢臨界発生

- ・2007年 5月 災害情報学会、日本地震学会などに入会、その後、日本地球惑星科学連合学会入会
- ・2009年 5月 ハムの月刊誌「CQ」で4月・5月にて研究会員募集、15名で**JYAN研究会発足**
- ・2009年10月 日本地震学会(京都大学)で地震電磁波などの新監視方式などを発表紹介
- ・2011年10月 日本地震学会(静岡)で地震に関する電磁気などの発生と異常理論を発表
- ・2012年 8月 東京ビッグサイトのハムフェアに出展(この年から、毎年展示に参加～連続6回)
- ・2013年 7月7日 JYAN大分ネット第2回総会で研修会 10月2日 産経新聞夕刊「1面トップ」でJYAN研紹介
- ・2014年 3月14日 伊予灘で地震発生全面記録 12月25/26日 日本地震予知学会(電通大)で2項発表
- ・2015年 5月25日～26日 JGUの学会大会(幕張)でFM電磁波観測による潮汐同期等の2項を発表
- ・2016年4月14&16日 熊本地震でM7クラスが2回発生する事を観測で予知できたのはJYAN研のみでした！
- ・2016年12月5日 日本地震予知学会のニューズレター第3号に2Pで当JYAN研が紹介されました。
- ・2017年3月5日 西日本ハムフェアで熊本の観測状況講演 同年5月26日JGU学会大会で熊本地震発表
- ・2017年6月8日 産経新聞にJYAN研が大きく紹介されました。8月月刊誌「CQ」に4PでJYAN研活動が紹介
- ・2017年10月25日 日本地震学会(鹿児島市)で熊本地震での地震観測状況などを詳しく発表しました。
- ・2017年12月25日 日本地震予知学会で熊本地震での地震観測状況などを講演したいへん好評でした。

**学会等の発表及び講演 日本地震学会5回、JpGU4回&講演22回(2017-5JpGU発表済み)**

**記事=CQ6回新聞4回 観測網は全国で50局が(200波)を観測中！ 東京晴海のハムフェアは6年連続  
地震予知アマチュアネット(地震前兆ノイズ研究会・会員ML等350名超・大分県国東市)**

**JYAN研究会&地震予測観測網等々 会 長 JH6ARA 國 廣 秀 光**